

- 1 教育事業名 「美ら島サンゴ大作戦」～ みつけよう サンゴの不思議 ～
- 2 ね ら い サンゴという題材をとおして多様な生物のつながりについて学び、身近な環境問題について関心を高めることで地域の一員として積極的に環境保全活動に取り組もうとする意欲を高める。
- 3 期 日 平成 29 年 10 月 7 日（土）～ 9 日（月） 2 泊 3 日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 24 名
- 6 参加人数 23 名
- 7 参加者内訳 小学 5 年生 13 名、小学 6 年生 4 名、中学 1 年生 6 名（男子 12 名、女子 11 名）
- 8 講 師
- ・ 番田 武六 氏（ダイビングショップ「Vibgyor」代表）
講話「サンゴ礁の話」
 - ・ 米田 英明（琉球新報社 渡嘉敷村通信員）
実習「サンゴ礁の恵みを探そう」
 - ・ 野中 正法 氏（沖縄美ら島財団総合研究センター統括）
実習「サンゴ礁ウォッチング」「サンゴの秘密」
「渡嘉志久湾のサンゴ礁調べ」
 - ・ 比嘉 康裕 氏、森 有紀子 氏、金城 真里子 氏
実習「スノーケリングの基礎と海中観察」「サンゴ礁ウォッチング」
「サンゴ礁調べまとめと発表」「渡嘉志久湾のサンゴ礁調べ」

9 実施プログラム

十月七日 (土)	11:00	12:00	13:10	14:20	16:50	17:35	18:45	20:15	21:00	就寝準備	就寝
	とまりん集合 受付	フェリーとかしき	移動	オープニング	作戦 1 ～海マスターになろう！～				講話① 「サンゴ礁の話」		
				実習① 「スノーケリングの基礎 と海中観察」 (渡嘉志久湾の観察)	移動	入所 OR	夕食				

十月八日 (日)	9:00	9:20	11:00	13:00	17:00	17:30	18:45	20:15	21:00	就寝準備	就寝
	朝食準備	移動	作戦 2 ～サンゴ博士になろう！～				実習④ 「サンゴの秘密」				
			実習② 「サンゴ礁の恵みを 探そう」 (船越原遺跡) (根元屋石垣)	移動準備 昼食	実習③ 「サンゴ礁 ウォッチング」 (渡嘉敷島沿岸)	移動	夕食 休憩				

十月九日 (月)	9:00	9:30	10:30	11:45	13:45	14:30	15:30	16:40	17:00	解散式	解散
	朝食準備	移動	作戦 3 ～サンゴ大作戦！～			エンディング	移動 乗船	フェリーとかしき			
			実習⑤ 「渡嘉志久湾の サンゴ礁調べ」	シャワー 昼食	実習⑥ 「サンゴ礁調べ まとめと発表」						

10 事業の様子



スノーケリングの技能を正しく学ぶ



講話での活発な質疑応答



古い石垣から人とサンゴとの関わりを学ぶ



ボートからのエントリーでウォッチングへ



ルーペで骨格標本の細部まで観察



グループで探索するサンゴの特徴を確認



お目当てのハマサンゴを発見



グループ発表に対する講師からのコメント

11 エピソード（アンケート・参加者の感想）

- ・サンゴはイソギンチャクやクラゲと同じ刺胞生物であり、その種類によってそれぞれ特徴があることが分かった。
- ・サンゴの骨格標本をルーペで観察してみると、今まで見たこともない模様だったのでとても驚いた。
- ・サンゴの種類や外敵、建材としての活用などいろんなことを学び、サンゴについて興味が深まった。
- ・サンゴ礁があることで高い波から島が守られていることや、昔から人間は海の恵みを受けて生きてきたことが分かった。
- ・これまでもスノーケリングの経験はあったけど、基本的なことを正しく学ぶことができてよかった。
- ・ボートで深い所まで行ってスノーケリングすると、多くのサンゴや生き物がいてびっくりした。
- ・サンゴはとてもすばらしい生き物なので、シャンプーや日焼け止めなどは天然成分のものを使うことで守っていききたい。
- ・海の環境や大切なサンゴを守るためにゴミを減らすことからはじめようと思った。
- ・サンゴを増やすためには、私達一人一人が行動をおこさないといけないと思った。自分にもできることを見つけたい。
- ・一人一人がエコな生活をするのがサンゴを守ることに繋がると思った。
- ・スノーケリングでキクメイシの仲間を探すのは難しかったけど楽しいチャレンジだった。
- ・グループで協力して目標のサンゴを探ることができ、写真を撮って紹介できたので楽しかった。
- ・私の住んでいる地域にもサンゴがたくさんあるので、今回学んだことを確かめながら観察してみたい。

12 担当者所見

（1）成果

- ・スノーケリングの基礎的な技能を少人数で学ぶことで、安全でゆとりあるサンゴ礁ウォッチング、サンゴ礁調べにつながった。
- ・夜間の講話、演習を通して、生物としてのサンゴの生態を理解すると共に、自然環境としてサンゴ礁を捉え、その重要性について考えを深めることができた。
- ・サンゴの骨格標本を用いてその仲間ごとの特徴を学んだことで、実際にスノーケリングをしながらグループごとに目当てとしていたサンゴを探し出すことができた。
- ・スノーケリングをしながら実際にサンゴや海の生き物を観察することで、サンゴが多くの生き物を支える存在であることを実感を伴って理解することができた。
- ・渡嘉敷集落に点在する古い石垣やその石切場の見学等を通して、人間が海から多くの恩恵を受けながら生きてきたことを学ぶことができた。

（2）課題

- ・干潮時にリーフを歩きながらサンゴを観察するプログラムを導入することで、より細かい部分までサンゴを観察することができる。潮の干満、潮位を考慮した日程の設定が必要である。
- ・サンゴの大切さは理解できたが、その保全に向けての話し合いが不十分であった。具体的な活動に向けてディスカッションを行う等、参加者相互の意見交換やその発信につながるプログラムの設定が必要である。